

公立大学法人公立小松大学 平成30年度 業務実績の評価

- ◆ 教育・研究
- ◆ 地域貢献
- ◆ 法人経営



令和元年8月

小松市公立大学法人評価委員会

Contents

はじめに	2
I 全体評価	
総評	3
II 項目別評価	
1. 教育・研究編	4
(1) 教育	4
(2) 研究	6
(3) 国際交流	8
2. 地域貢献編	10
(1) 地域貢献	10
3. 法人経営編	12
(1) 業務運営	12
(2) 財務	13
(3) 自己点検評価・広報	14
(4) 施設・設備	15
(5) その他	15
III 資料	
1. 公立小松大学の情報	16
(1) 基本理念・教育理念	16
(2) 大学の学部・学科構成	16
(3) 組織図	17
2. 評価	18
(1) 評価の基本方針	18
(2) 評価項目・評価基準	18
(3) 小項目別評価 総括表	19
3. 用語解説	20

はじめに

小松市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第 78 条の 2 の規定に基づき、小松市が設置した地方独立行政法人である公立大学法人公立小松大学の平成 30 年度業務実績に関する年度評価を行いました。

今回実施した年度評価は、法人が中期目標を着実に達成するために策定した中期計画及び年度計画の進捗状況を確認し、評価結果を示すことにより、法人の自主的な業務改善を促すとともに、法人の活動を社会に示すという意義があります。

本評価書では、評価委員会が法人から提出された業務実績報告書及び法人からのヒアリング等を通じて業務の実績を総合的に評価し、まとめた評価結果について、総評を行うとともに、項目ごとに、特筆される大学の取組、評価委員会として特に評価する点及び今後の課題とする点を掲載しています。

小松市公立大学法人評価委員会 委員

役職	氏名	所属	職名
委員長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	金沢大学	監事
委員	まつざわ てるお 松澤 照男	北陸先端科学技術大学院大学	プレジデンシャル・アドバイザー
委員	なかやま けんいち 中山 賢一	小松マテーレ株式会社	代表取締役会長
委員	あきやま のりこ 秋山 典子	医療法人社団 澄鈴会	理事長
委員	かわみなみ えみ 河南 恵美	河南恵美税理士事務所	代表

※小松市公立大学法人評価委員会条例により設置する市長の附属機関
法人の運営に関し、第三者の視点から評価を行う



公立小松大学中央キャンパス

I 全体評価

総評

評価 **A** [中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる]

平成 30 年度の法人の業務実績全体は、中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価し、公立大学として順調にスタートを切っていると判断できる。

全体として、教育・研究においては、計画されていたすべての授業科目を開講し、複合大学の強みを生かした学生の幅広い視野と主体的な学びを育成する講義の展開により、学生に積極的な学びの姿勢が広がっている。国際交流においては、海外大学等との交流協定締結や連携事業をはじめ、海外の研究者を招いた講演会等が開催されており、また、シリコンバレーにオフィスが開設されるなど異文化交流を推進している。一方、地域貢献においては、将来の就職やインターンシップ、共同研究等を視野に協力企業等への登録に多数の賛同を得て、地域の企業等との連携を構築しており、グローバル人材を育成する取組がスタートしている。「こまつ市民大学」の運営への参画や社会人教育プログラムなど地域の学びの拠点として大きな役割を担っているほか地域の行事やボランティア活動への参加を積極的に展開している。

これからは公立大学としての特色あふれる取組を実践し、小松市や地域、企業等のニーズや取組を生かすことができる教育・研究の推進が期待される。産官学の連携、国際交流に強みを発揮していただきたい。

法人がこの評価結果を積極的に活用し、この1年間の業務内容をあらためて自己点検し速やかな業務改善により、教育・研究、地域貢献、法人経営をより一層充実していくことを期待する。

項目別評価		
	項目	評価結果
1. 教育・研究	(1) 教育	A 順調
	(2) 研究	A 順調
	(3) 国際交流	A 順調
2. 地域貢献	(1) 地域貢献	A 順調
3. 法人経営	(1) 業務運営	B 概ね順調
	(2) 財務	A 順調
	(3) 自己点検評価・広報	A 順調
	(4) 施設・設備	A 順調
	(5) その他	A 順調

【評価基準】

S: 特筆すべき進行状況 **A**: 順調 **B**: 概ね順調 **C**: 要改善 **D**: 要抜本的改善

Ⅱ 項目別評価

1. 教育・研究編

(1) 教育

評価

A (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 文部科学省に提出した設置認可申請書記載の計画の着実な履行
- ❖ 授業評価アンケートに基づく授業改善
- ❖ 学外の「中国語スピーチコンテスト」での1等賞受賞や「第2種ME技術実力検定試験」合格など、積極的な学びの姿勢の広がり
- ❖ 開学記念講演会(全8回)、開学記念フォーラムの開催
- ❖ キャリアデザインセミナー、地域優良企業への訪問プログラムの実施

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 1年次の討論やプレゼンテーション、レポート等の手法を学ぶ授業科目の設定
- 他学部教員の授業による学部間を超えた広いものの見方、新しい着眼点の修得
- 授業評価アンケートによる学生目線に立った授業の評価、改善
- 多岐にわたるシンポジウムの開催
- 学生一人ひとりへの相談教員又はクラス担任の配置
- 大学の環境改善に向けた学生参加型の取組体制の構築
- 学生の課外活動拠点づくりの推進



授業の様子



中国語スピーチコンテスト
(中部東海地区大会)

1等賞
3名



第2種ME技術実力検定試験

日本生体医工学会が実施する「ME機器・システムの安全管理を中心とした医用生体工学に関する知識をもち、適切な指導のもとで、それを実際に医療に応用する資質」を検定
(ME:Medical Engineering)

合格
3名

《今後の課題とする点》

- 公立小松大学として特色のある教育、学生支援活動の在り方
- 広報活動の充実による地域への大学理解の拡大
- キャリア教育・就職支援に向けた組織的取組の充実

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	2018目標値	2018実績	備考
志願倍率	志願者数 / 募集定員	2023年度	2倍以上	-	(6.8倍)	平成30年度入試6.8倍 [一般8.4倍、特別1.8倍] 平成31年度入試7.2倍 [一般8.8倍、特別2.6倍]
学生の満足度	5段階評価(平均値)	毎年度	3.3	3.3	3.87 [達成]	前期 3.90 後期 3.83
市民講座開講数	開講テーマ数 / 年	2021年度以降	10テーマ / 年	-	(26テーマ)	開学記念講演会 8 開学記念フォーラム 1 その他授業 3 公開講座 7 資格取得支援講座 2 市民大学 5
	教員参画数 / 年	2021年度以降	20人 / 年	-	(延べ24人)	公立小松大学 18人 小松短期大学 6人
市民による施設利用度	市民図書館利用者数 / 年	毎年度	500人	500人	1,473人 [達成]	
	自習室利用登録者数 / 年	毎年度	80人	80人	1,156人 [達成]	登録制から毎回の受付に変更
	大学施設利用件数 / 年	毎年度	25件	25件	395件 [達成]	中央 79件 粟津 316件

※() は、達成年度前であるが、2018年度実績として数値を把握しているもの

幅広い教養と高い専門知識を 段階的に身につけるカリキュラム

共通教育科目

幅広い知識、洞察力、思考力、理解力を養い、専門分野を学ぶ上で必要となる素養を身につける。

導入科目

大学での学習スタートにあたり必要となる基礎知識やスキル、キャリアデザインを学ぶ

キャリアデザイン・チーム論、アカデミックスキルズ※、テーマ別基礎ゼミ、情報処理基礎※、南加賀の歴史と文化
(※他学部の教員が担当する科目)

一般科目

幅広い教養と豊かな人間性を養成

英語科目

英語を必修科目として学ぶことで、英語の実践的運用能力を身につける

その他 外国語科目

中国語、ロシア語、フランス語、スペイン語、ドイツ語から選択し、基本的な文法とコミュニケーション能力の修得を目指す

専門基礎科目

共通教育科目を通じて修得した幅広い教養と、思考力を土台として、専門教育の基礎となる知識、能力を身につける。

専門科目

専門的な能力の修得と同時に、実習や卒業課題を通じて自らの学びが社会でどのように繋がるのかを認識させることで、学びへの主体的な姿勢を維持し、質の高い大学教育を実現する。

(2) 研究

評価 **A** (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

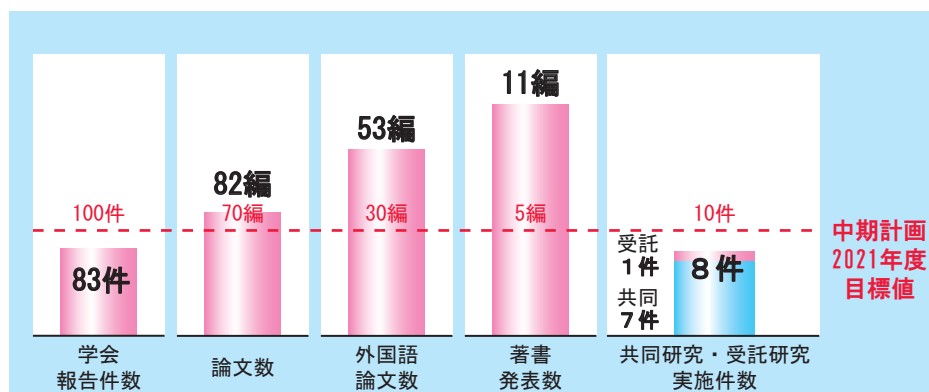
- ❖ シーズ・ニーズマッチングシンポジウム開催
- ❖ 共同研究・受託研究の実施
- ❖ 公立小松大学研究シーズ集・研究者要覧の制作
- ❖ 大学ホームページを活用した特に際立った研究成果のPR
- ❖ 産官学連携イベントへの出展による研究シーズの発信
- ❖ 外部研究資金の獲得に向けた教員への研修
- ❖ こまつビジネス創造プラザ等を研究拠点として活用

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 学術論文・著書の発表数
- 教員の顔と研究内容がわかる研究者要覧の制作
- 研究環境の整備中の段階での共同研究・受託研究の実施



シーズ・ニーズマッチング
シンポジウム

産業、医療、観光、国際化、地域づくり等の大学が有する人的資源・知的財産等を地域の企業、医療機関、地域づくり団体等に紹介するとともに、地域の様々なニーズを探り、これら結びつけることを目的に開催



外部研究資金説明会

外部研究資金（科学研究費補助金など外部からの研究助成）の獲得に向け、教員への説明会を開催

《今後の課題とする点》

- シーズ・ニーズマッチングシンポジウムから具体的な成果へ発展
- 地域の課題を捉えた共同・受託研究の推進

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	2018目標値	2018実績	備考
学会報告件数	報告件数 / 年	2021年度以降	100件	-	(83件)	
論文・著書数	論文数 / 年	2021年度以降	70編	-	(82編)	
	英語・その他の外国語論文数 / 年	2021年度以降	30編	-	(53編)	
	著書発表数 / 年	2021年度以降	5編	-	(11編)	
共同研究・受託研究数	実施件数 / 年	2021年度以降	10件	-	(8件)	共同研究 7件 受託研究 1件
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数 / 年	2021年度以降	15件	-	(19件)	新規 6件 継続 13件
	その他外部研究資金採択件数 / 年	2021年度以降	5件	-	(2件)	

※() は、達成年度前であるが、2018年度実績として数値を把握しているもの



研究シーズ集・研究者要覧

教員の研究分野や研究内容について紹介した冊子

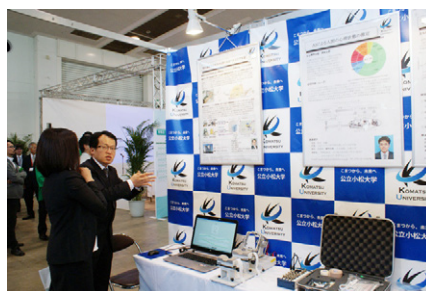


紀要「国際文化」

国際文化交流学部が発行する学術誌
観光・地域創生、政治経済、言語文化等の国際文化に関わる研究論文を掲載



Matching HUB Kanazawa 2018



北陸技術交流テクノフェア

大学の研究シーズの発信を目的として、産官学連携イベントに出展し、企業等との新たな関係づくりを実施

(3) 国際交流

評価 **A** (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 海外大学・機関との交流協定締結・連携事業実施
 - ・ 建國科技大学 (台湾)
 - ・ 国立中央大学 英米語文学科・言語センター (台湾)
 - ・ プリンソブソクラ大学 (タイ)
 - ・ カンボジア国立アンコール遺跡整備公団 (カンボジア)
- ❖ シリコンバレー (アメリカ) にオフィス開設
- ❖ 海外の研究者を招いた講演会やシンポジウム、研究セミナー開催
- ❖ 国際交流センターによる海外視察団受入や国際関連イベントへの講師派遣

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 海外で学ぶ機会づくり

〔 海外大学との交流協定締結、新規連携先の開拓、
シリコンバレーオフィス開設など 〕

- 海外の研究者を招いた講演会等の開催
- 公立小松大学を会場とした国際セミナーや会議の開催

《今後の課題とする点》

- 個々の教員による国際交流活動から大学としての活動への発展



JAPAN TENT への学生参加

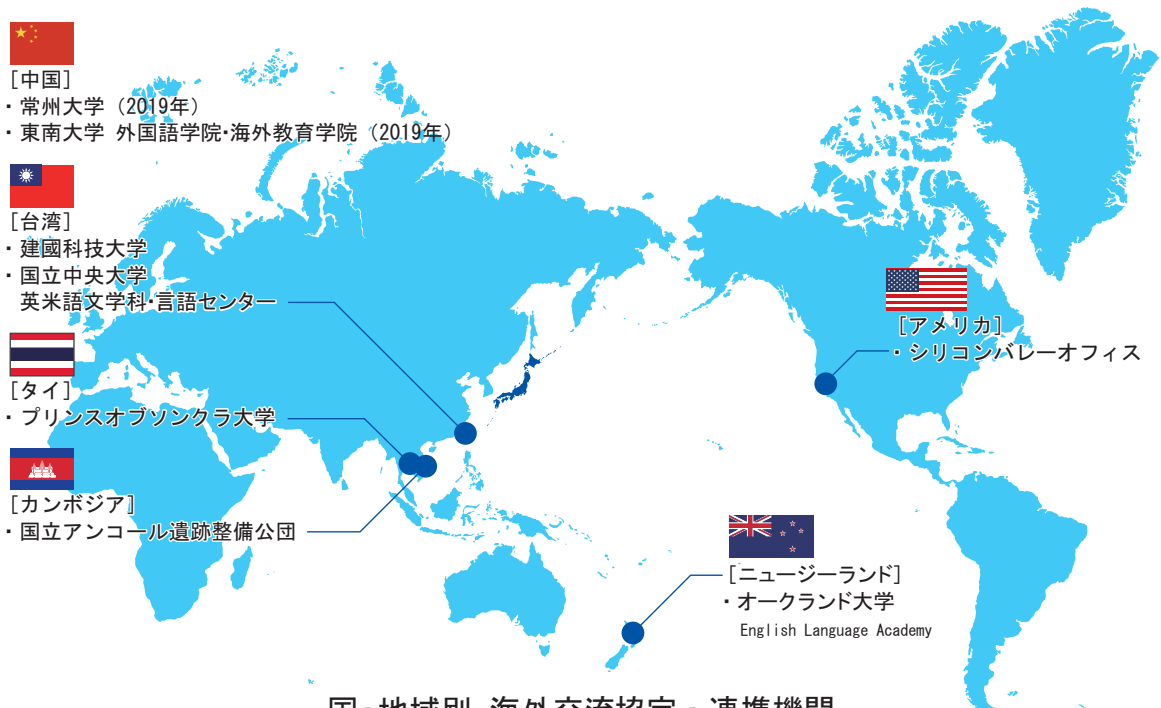
日本各地で学ぶ外国人留学生・研修生が県内市町で市民との交流を行う事業に、学生がボランティアとして参加



海外インターンシップ
(カンボジア国立アンコール遺跡整備公団)



海外大学の研究者による講演会
ハーバード大学医学部/
ジョスリン糖尿病センター
Shelson 教授

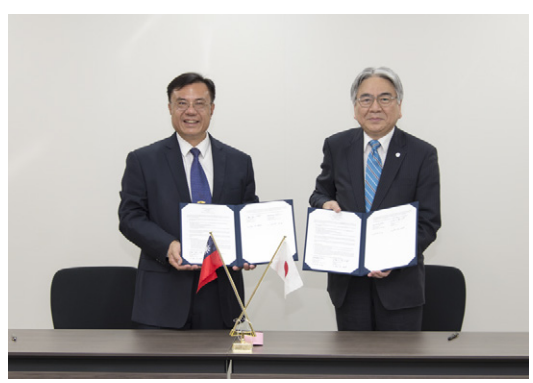


国・地域別 海外交流協定・連携機関

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	2018目標値	2018実績	備考
留学生受入・派遣数	派遣人数 / 年	2020年度以降	40人以上	-	(4人)	カンボジア 国立アンコールワット整備公団
海外大学等との交流協定締結数	協定数 (累計)	2023年度	10件	-	(4件)	P8 大学の取組 参照
国際シンポジウム・セミナー等 発表・開催数	発表者数 / 年	2021年度以降	15人	-	(延べ30人)	
	開催件数 (累計)	2023年度	15件	-	(7件)	

※() は、達成年度前であるが、2018年度実績として数値を把握しているもの



建國科技大学 (台湾) との 交流協定締結式



公立小松大学シリコンバレーオフィス

2. 地域貢献編

(1) 地域貢献

評価

A (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 産官学連携イベントへの出展・参加による研究シーズの発信
- ❖ 社会人教育プログラム「ものづくり人材スキルアッププログラム」の実施
- ❖ 開学記念講演会・フォーラム、市民公開講座の開催
- ❖ 「こまつ市民大学」の設立、運営への参画、講師派遣
- ❖ 大学施設の市民開放
 - ・中央キャンパス：附属図書館、自習室
 - ・粟津キャンパス：学生食堂、附属図書館
- ❖ 大学祭「青松祭」開催
- ❖ 地域イベントへの学生・職員の積極的な参加

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 協力企業等への登録 279 団体
- 大学施設の市民利用
- 学生や職員の地域行事への積極的参加
- 学生の課外活動の場として町家を活用

《今後の課題とする点》

- 地域課題の解決や人材育成に向けた、大学の専門性を活かした取組の推進
- 市民公開型授業等のPR



市民公開講座



お旅まつり



クリーンビーチいしかわ



どんどんまつり

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	2018目標値	2018実績	備考
市民講座 開講数	開講テーマ数 /年	2021年度 以降	10テーマ /年	-	(26テーマ)	開学記念講演会 8 開学記念フォーラム 1 その他授業 3 公開講座 7 資格取得支援講座 2 市民大学 5
	教員参画数 /年	2021年度 以降	20人 /年	-	(延べ24人)	公立小松大学 18人 小松短期大学 6人
市民による 施設利用度	市民図書館 利用者数/年	毎年度	500人	500人	1,473人 [達成]	
	自習室利用 登録者数/年	毎年度	80人	80人	1,156人 [達成]	登録制から 毎回の受付に変更
	大学施設 利用件数/年	毎年度	25件	25件	395件 [達成]	中央 79件 粟津 316件
連携施設・ 店舗等の数	累計数	2023年度	50件	-	(298件)	協力企業等 279団体 ランチ助成券 18店舗 学食ネット 6店舗 (ランチ助成券との 重複5店舗)
学生の 地域行事等 ボランティア 件数・人数	件数/年	2021年度 以降	20件	-	(5件)	
	参加人数 /年	2021年度 以降	100人	-	(128人)	

※() は、達成年度前であるが、2018年度実績として数値を把握しているもの



大学祭「青松祭」

2日間の日程で大学祭を開催。学科やサークルによるブースやステージイベント、芸能人によるトークショーが行われ、多くの学生や市民で賑わった



開学記念フォーラム
「宇宙・地球・ひと」

第一線で活躍する研究者や技術者によるフォーラムを開催

3. 法人経営編

(1) 業務運営

評価	B (目標・計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる)
----	-----------------------------------

大学の取組

- ❖ 理事会や各種審議会、教授会等の組織体制を構築
- ❖ 「公立小松大学憲章」制定
- ❖ 各種委員会や会議の設置による分野ごとの自律的な運営体制確立
- ❖ 管理職級の会議による方針・決定事項の全学への周知徹底
- ❖ 年間を通じた研修会開催

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 管理職級の会議開催による情報・課題の共有
- 職員採用における経験者の採用

《今後の課題とする点》

- 各種委員会の実行組織としての役割認識
- 複数キャンパス体制での情報共有及び指揮命令系統の確立・調整
- 職員ニーズを捉えた研修テーマの設定
- 年度計画の取組内容の具体化



職員研修

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	2018目標値	2018実績	備考
業務改善実施件数	件数（累計）	2023年度	40件	-	(15件)	
FD・SD活動取組件数	FD・SD活動取組件数/年	毎年度	1件以上	1件以上	3件 [達成]	第1回「公立大学が果たすべき役割」 第2回「入試結果分析会」 第3回「今年度の健康診断とストレスチェックの結果から」

※() は、達成年度前であるが、2018年度実績として数値を把握しているもの

(2) 財務

評価 **A** (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 安定的な学生納付金等の確保に向け、高校教諭対象大学説明会やオープンキャンパス開催、高校訪問など様々な取組による受験生の獲得及び定員充足
- ❖ 外部資金の獲得に向けた共同研究・受託研究の推進及び公立小松大学基金の設立

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 多様な学生募集活動による受験者・入学者の獲得と安定した学生納付金の確保
- 基金の設立、外部資金獲得に向けた体制整備
- コストを意識した業務運営・業務改善の実施

《今後の課題とする点》

- 基金の活用方法についての情報提供



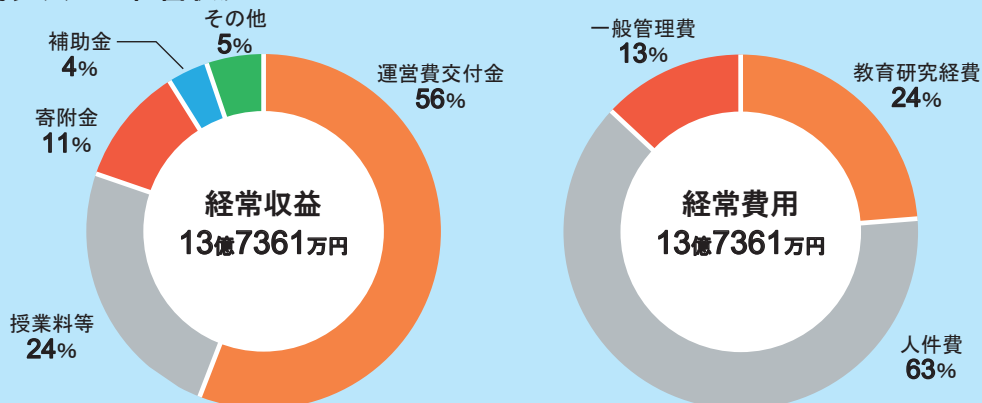
オープンキャンパス
8・9月にオープンキャンパスを開催し、全国から合計約610名が参加学生による学科紹介や模擬講義などを実施

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	2018目標値	2018実績	備考
自己収入額	自己収入額 / 年	2021年度以降	7億円以上	-	(3.8億円)	
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数 / 年	2021年度以降	15件	-	(19件)	新規 6件 継続 13件
	その他外部研究資金採択件数 / 年	2021年度以降	5件	-	(2件)	

※() は、達成年度前であるが、2018年度実績として数値を把握しているもの

【参考】法人の経営状況



※寄附金は、小松短期大学からの承継資金と一般寄附

(3) 自己点検評価・広報

評価 **A** (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 自己点検・評価委員会や評価室による法人内自己点検・評価体制の確立
- ❖ 大学ホームページのリニューアル
- ❖ 広報室設置や広報マニュアル策定による広報体制の整備
- ❖ 広報誌「Tachyon (タキオン)」の発行のほか、テレビやラジオ、新聞、雑誌等の様々な媒体を活用した広報活動展開

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 定期的な進捗管理制度の構築・実施
- 積極的かつ多様な広報活動の実施

《今後の課題とする点》

- 自己点検・評価結果から業務改善のPDCAサイクルの徹底
- 大学に対する市民の理解をより促進するための広報活動



公立小松大学ホームページ



ラジオ広報番組

学生や教職員が出演
本学の教育・研究活動やキャンパスライフなどを紹介



広報紙「Tachyon」(タキオン)

ときに光速をも超える思念やインスピレーションが学生・職員の spirit から発せられるよう願ひ、タイトルとして選ばれたのが「タキオン」(Tachyon)

Tachyon は、今だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「 $\tau\alpha\chi\upsilon\varsigma$ (速い)」が語源



県内外での大学説明会

北陸3県や名古屋、長野などでの進学相談会により、全国に向け広く大学をPR



「広報こまつ」でのPR
教員の研究内容や大学での意気込みについて紹介

(4) 施設・設備

評価 **A** (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 粟津キャンパス、末広キャンパスの整備実施
- ❖ 南加賀公設卸売市場、こまつビジネス創造プラザの研究実施場所としての活用

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 中央キャンパスにおける適切な教育環境の提供

《今後の課題とする点》

- 学生の利用実態や意見を参考とした学びのための環境整備



末広キャンパス完成予定図

(5) その他

評価 **A** (目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる)

大学の取組

- ❖ 保健管理センターにおける定期健康診断や学生相談等による心身の健康維持・増進活動
- ❖ 衛生委員会による産業医の職場巡回やインフルエンザ集団予防接種等、職員の心身の健康維持・増進に向けた取組の実施
- ❖ 危機管理のための規則・基本マニュアルの策定
- ❖ 防災・防犯のための備品等の整備、訓練の実施

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

《特に評価する点》

- 学生が安心して学ぶことができる環境の形成

《今後の課題とする点》

- ハラスメントに関する研修の継続的实施、ハラスメント対応の実施体制の確認・検証・評価



小松市消防本部と連携した訓練

Ⅲ 資料

1. 公立小松大学の情報

(1) 基本理念・教育理念

公立小松大学（以下「大学」という。）は、これまで地域で培われてきた教育資源である小松短期大学及びこまつ看護学校の施設設備や高い教育実績を礎に、これらを再編・発展させ、南加賀唯一の4年制高等教育機関として平成30年4月に開学した。

地域における教育、研究の中核的拠点として、以下の**基本理念**を掲げている。

- ❖ 地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成する大学
- ❖ 持続的発展に向けて生産システムや人間の健康医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する大学
- ❖ 地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学

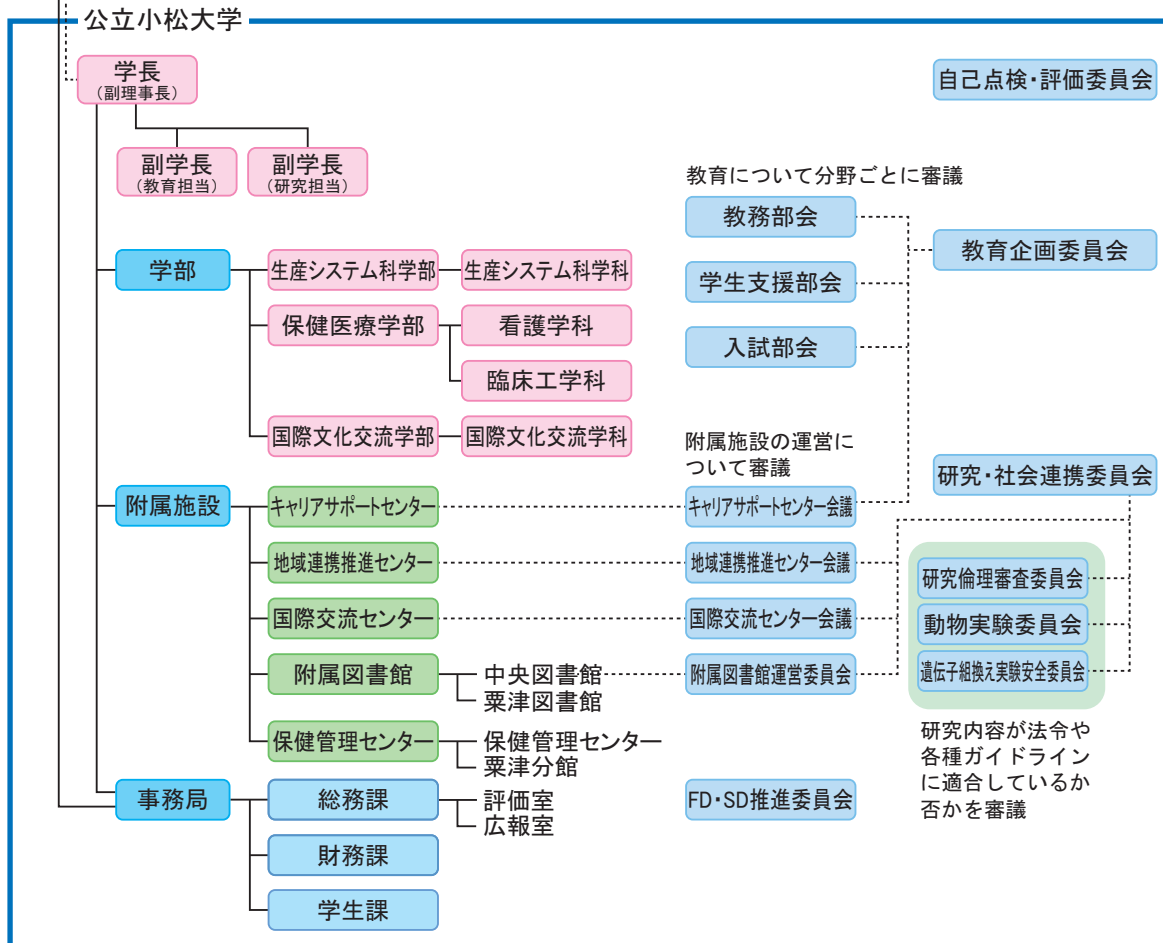
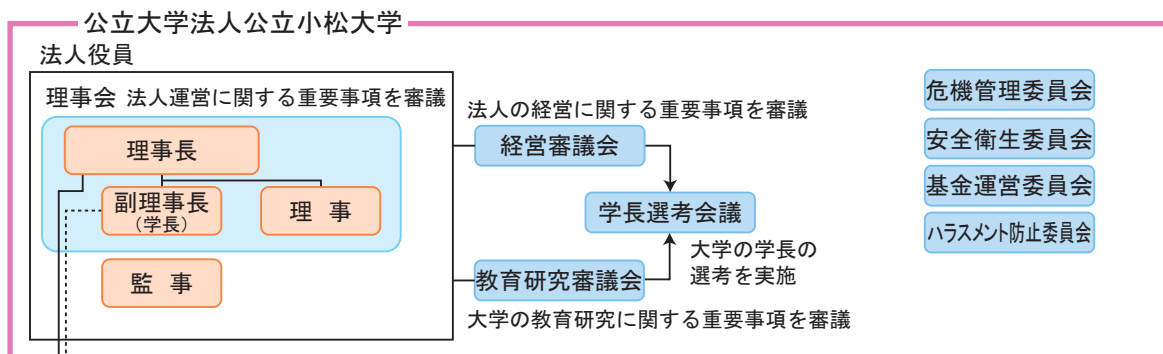
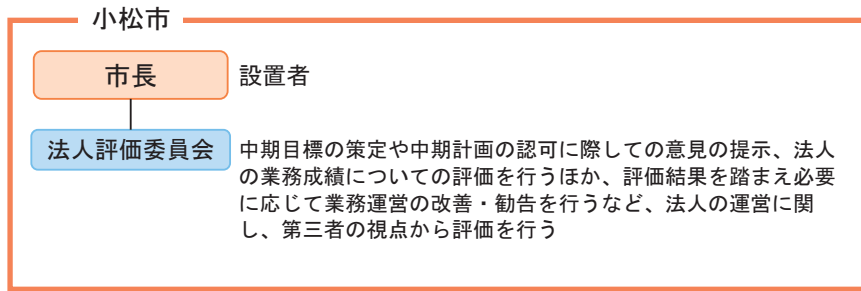
また、基本理念に基づき、以下の**教育理念**を掲げている。

- ❖ 確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた主体的な学びと組織的な教育
- ❖ 人間・社会・自然と科学技術の発展を総合的に捉える先駆的な科学教育
- ❖ 人間性豊かな市民、応用力のある専門職業人、グローバル人材を育成する地域と協働した教育

(2) 大学の学部・学科構成

学部	学科	入学定員	収容定員	現員 (平成30年5月1日現在)		
				男	女	計
生産システム科学部	生産システム科学科	80人	320人	71人	9人	80人
保健医療学部	看護学科	50人	200人	3人	50人	53人
	臨床工学科	30人	120人	15人	19人	34人
国際文化交流学部	国際文化交流学科	80人	320人	17人	66人	83人
計		240人	960人	106人	144人	250人

(3) 組織図



2. 評価

(1) 評価の基本方針

年度評価は、法人の中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行う。なお、評価の際は、法人の教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成に向けた取組状況を市民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

(2) 評価項目・評価基準

評価項目

項目別評価

小項目別評価 年度計画の最小項目として記載されている各事項の達成状況。評価基準に沿って評価を行う

指標単位評価 年度計画の各数値目標の達成状況。評価基準に沿って評価を行う

大項目別評価 小項目別評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における大項目ごとの進捗状況
大項目ごとに評価基準に沿って、中期計画の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う

全体評価 項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況。大項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う

評価基準

評価区分	評価	評価基準	評価の目安	
項目別評価	小項目別評価	5	年度計画を大幅に上回る	特に優れる若しくは顕著な成果がある
		4	年度計画を上回る	上回る若しくは十分な実施状況
		3	年度計画を概ね実施	実施している
		2	年度計画を十分に実施せず	下回る若しくは実施が不十分
		1	年度計画を大幅に下回る	特に劣る若しくは実施していない
	指標単位評価	s	年度計画を大幅に上回る	達成率 100% 以上かつ顕著な成果がある
		a	年度計画を上回る	達成率 100% 以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率 80% 以上 100% 未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率 60% 以上 80% 未満
	大項目別評価	S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	・小項目別評価の平均値が 4.3 以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組があると評価委員会が認める場合
A		中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに評価委員会が「A」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下に満たないが、指標単位評価の評価及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合	

評価区分	評価	評価基準	評価の目安
項目別評価	B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、さらに評価委員会が「B」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、さらに評価委員会が「C」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が 1.8 以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると評価委員会が認める場合
	C	中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	
	D	中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	
全体評価	S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価
	A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	
	B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	
	C	中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	
	D	中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	

(3) 小項目別評価 総括表

大項目	事業項目数	5	4	3	2	1	評定平均値
		年度計画を大幅に上回る	年度計画を上回る	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る	
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育に関する目標を達成するための措置	36	8 (22.2%)	17 (47.2%)	11 (30.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究に関する目標を達成するための措置	9	0 (0.0%)	6 (66.7%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.7
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 国際交流に関する目標を達成するための措置	7	2 (28.6%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
III 地域貢献に関する目標を達成するための措置	9	1 (11.1%)	8 (88.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.1
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	14	0 (0.0%)	4 (28.6%)	10 (71.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.3
V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	8	1 (12.5%)	4 (50.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	4	1 (25.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置	14	1 (7.1%)	9 (64.3%)	4 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
XII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
合計	102	14 (13.7%)	54 (52.9%)	34 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8

3. 用語解説

〔地方独立行政法人〕

住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施される必要のある事務・事業のうち、地方公共団体自身が直接実施する必要はないものの、民間の主体に委ねては確実な実施が確保できないおそれがあるものを効率的・効果的に行わせるため、地方公共団体が設立する法人。

〔公立大学法人〕

地方独立行政法人のうち、大学の設置及び管理を行うもの。公立小松大学の設置・管理は、「公立大学法人公立小松大学」が行っている。

〔評価委員会〕

地方独立行政法人法第 11 条の規定により小松市長の附属機関として設置され、中期目標の策定や中期計画の認可に際しての意見の提示、法人の業務成績についての評価を行うほか、評価結果を踏まえ必要に応じて業務運営の改善・勧告を行うなど、法人の運営に関し、第三者の視点から評価する。評価委員会の組織及び委員等必要な事項は、小松市公立大学法人評価委員会条例で定めている。

〔中期目標〕

法人が、6 年間に於いて達成すべき目標で、市長が定め、公立大学法人に指示するもの。

〔中期計画〕

中期目標に基づき、当該中期目標を達成するために公立大学法人が作成するもの。

〔年度計画〕

中期計画を着実に実行していくために法人が年度ごとに作成するもの。

〔グローバル〕

「グローバル (Global):世界」と「ローカル (Local):地域」を掛け合わせた造語。グローバル人材は、国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験を有し、地域の活性化や持続的発展に貢献できる人材を指す。

〔キャリアデザイン〕

自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすること。自分の経験やスキル、ありたい将来像についてを考慮しながら、自らの持つ能力を活かすための仕事、職務の形成を進める。

〔共同研究〕

外部機関から研究経費等を受け入れ、大学の教員等が外部機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究や、大学・外部機関において共通の課題について分担して行う研究。

〔受託研究〕

大学が外部からの委託を受けて職務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するもの。

〔科学研究費補助金〕

人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会の事業。

〔FD・SD活動〕

ファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・ディベロップメント（SD）のための大学としての活動。

〔ファカルティ・ディベロップメント（FD）〕

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。

〔スタッフ・ディベロップメント（SD）〕

職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「職員」には、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。

〔自己収入額〕

経常収益のうち、「授業料」「入学金」「検定料」等の合計。

〔参考〕地方独立行政法人法（平成15年法律第108号）

（各事業年度に係る業務の実績等に関する評価等の特例）

第78条の2 公立大学法人は、毎事業年度の終了後、当該事業年度が次の各号に掲げる事業年度のいずれに該当するかに応じ当該各号に定める事項について、評価委員会の評価を受けなければならない。この場合において、第28条から第30条までの規定は、公立大学法人には、適用しない。

- (1) 次号及び第3号に掲げる事業年度以外の事業年度 当該事業年度における業務の実績
 - (2) 中期目標の期間の最後の事業年度の前々事業年度 当該事業年度における業務の実績及び中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績
 - (3) 中期目標の期間の最後の事業年度 当該事業年度における業務の実績及び中期目標の期間における業務の実績
- 2 公立大学法人は、前項の評価を受けようとするときは、設立団体の規則で定めるところにより、各事業年度の終了後3月以内に、同項第1号、第2号又は第3号に定める事項及び当該事項について自ら評価を行った結果を明らかにした報告書を評価委員会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 3 第1項の評価は、同項第1号、第2号又は第3号に定める事項について総合的な評定を付して、行わなければならない。この場合において、同項各号に規定する当該事業年度における業務の実績に関する評価は、当該事業年度における中期計画の実施状況の調査及び分析を行い、その結果を考慮して行わなければならない。
- 4 評価委員会は、第1項の評価を行ったときは、遅滞なく、当該公立大学法人に対して、その評価の結果を通知しなければならない。この場合において、評価委員会は、必要があると認めるときは、当該公立大学法人に対し、業務運営の改善その他の勧告をすることができる。
- 5 評価委員会は、前項の規定による通知を行ったときは、遅滞なく、その通知に係る事項（同項後段の規定による勧告をした場合には、その通知に係る事項及びその勧告の内容）を設立団体の長に報告するとともに、公表しなければならない。
- 6 設立団体の長は、前項の規定による報告を受けたときは、その旨を議会に報告しなければならない。
- 7 第29条の規定は、第1項の評価を受けた公立大学法人について準用する。